

(2015年度)

2 日本史問題 (60分)

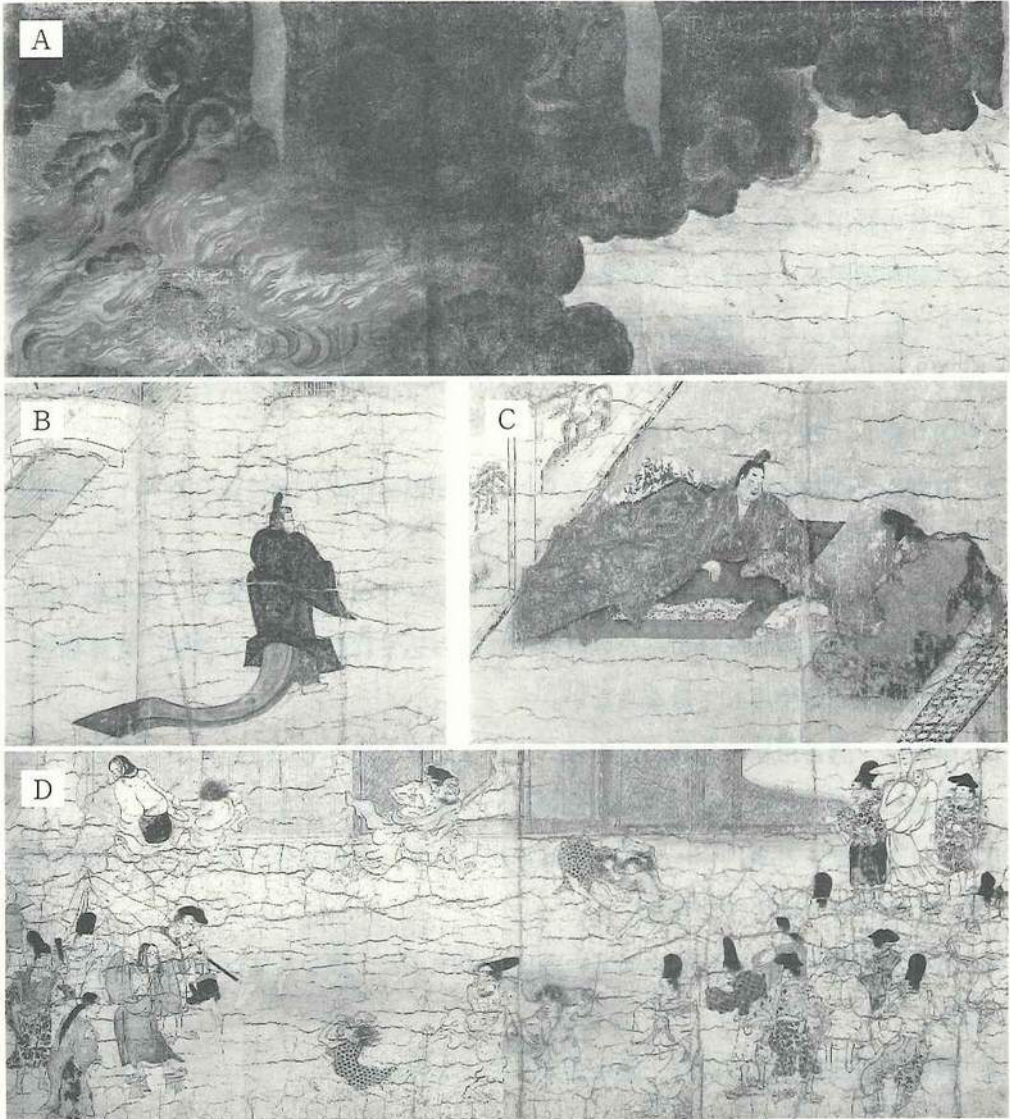
(この問題冊子は18ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 監督から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
5. 解答は，解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

- 1 次に掲げた図A～Dは、平安末期に描かれた同じ絵巻物の一場面である。よく見て、以下の問いに答えなさい。

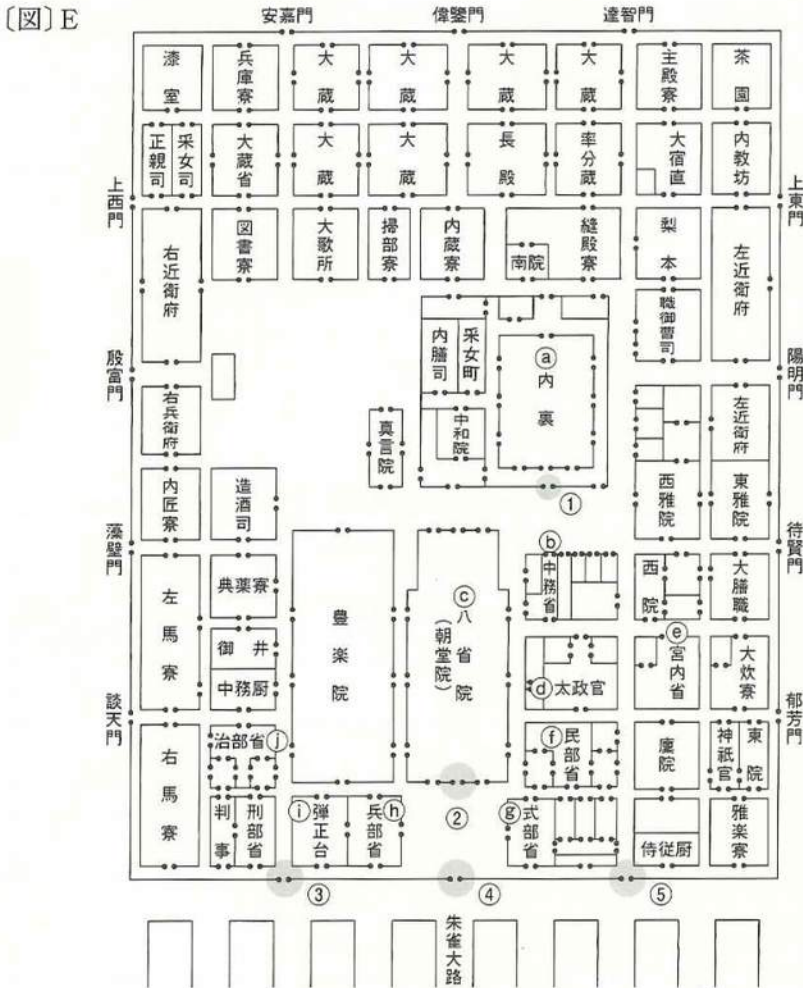
[図]



問1 前掲の絵巻物は、平安時代に起きたある事変の顛末を描いたものである。
その作者とされているのは誰か、もっとも適切な人名を次から1つ選びなさい。

- ① 高階隆兼 ② 常盤光長 ③ 鳥羽僧正覚猷 ④ 藤原隆信
⑤ 藤原隆能

問2 図Aは、事変のきっかけとなった火災を描いている。燃えている建物は、次の図E(平安宮大内裏図)上の網かけ円部①～⑤のいずれに当たるか。もっとも適切なものを1つ、記号で答えなさい。



問3 図Eの記号①～⑭は、それぞれ平安宮内に位置する官司または建物に付されている。それぞれの説明としてもっとも適切なものを、次から1つずつ選びなさい。

- ① 律令制下の最高官庁。太政大臣・左右大臣・大納言などの公卿からなる国政審議部門，その秘書部門たる少納言局，事務・執行部門の左右弁官局で構成された。
- ② 少納言管轄下の書記局で，詔書・論奏・太政官符などの作成を担当した。
- ③ 神祇祭祀を司り，太政官と並ぶ「官」とされたが，実質的にはその下位に位置づけられた。
- ④ 天皇の側近で，臣下の上表を天皇へ伝達し，詔勅の起草を担った。
- ⑤ 文官の人事，学校などを管掌した。
- ⑥ 喪葬・陵墓，雅楽や外交を管掌した。
- ⑦ 戸籍・租調庸・田畑を管掌し，国家財政を担った。
- ⑧ 武官の人事，軍事を管掌した。
- ⑨ 刑罰や良賤の訴を決した。
- ⑩ 出納や度量衡・物価を決定した。
- ⑪ 宮中の一般庶務を管掌した。
- ⑫ 役人の監察を管掌した。
- ⑬ 大極殿，朝堂，朝庭，朝集殿などから構成される。
- ⑭ 宮城内の天皇の居所で，正殿は紫宸殿である。
- ⑮ 正午に開かれ日没に閉じられ，市司が管理した。

問4 図Bに描かれているのは、前掲の絵巻物が描く事変の首謀者として処罰された人物と考えられている。その人物の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① ?～842。三筆の1人で、恒貞親王を奉じ謀反を企てたとして捕縛、伊豆に流された。
- ② 生没年未詳。讃岐国司として信望が厚かったが、異母弟が事件に関与したため、縁坐して土佐へ流された。
- ③ 811～868。大納言まで昇りつめたが、左大臣源信の失脚を謀って事件を起こし、伊豆に流された。
- ④ 845～903。右大臣まで昇りつめたが、娘婿を皇位に即けようとしていると疑われ、大宰権帥として左遷された。
- ⑤ 914～982。皇族出身で儀式書『西宮記』を著すなどしたが、藤原師尹の陰謀で大宰権帥として左遷された。

問5 次に掲げたのは、6～10世紀に活躍した人物の説明である。このうち、問4で答えた人物と同じ氏族の出身者を、5人選びなさい。ただし、6人以上を選んだ場合は、すべて不正解とする。

- ① 512年、「任那四県」を百済へ割譲したため、物部尾輿の弾劾で失脚した。
- ② 658～660年の間、越の国守として大船団を組織し、蝦夷や肅慎を征討した。
- ③ 天武・持統朝の有力官人で、『万葉集』に、「大君は 神にしませば 赤駒の 腹這ふ田居を 都と成しつ」の歌を残している。
- ④ 光明皇后の異父兄で、吉備真備や僧玄昉らを重用し、政権を掌握した。
- ⑤ 嵯峨天皇の皇后嘉智子の祖父に当たり、757年に藤原仲麻呂を除こうと謀ったが捕縛され、獄死した。
- ⑥ 万葉歌人として有名な女性で、旅人の妹に当たる。家刀自として宗家を切り盛りした。
- ⑦ 万葉歌人中、479首という最多数の歌を残し、『万葉集』の編者の1人に擬せられる。
- ⑧ 生没年未詳。恒貞親王の春宮坊帯刀舎人であったが、この親王を奉じて謀反を企てたとして、隱岐に配流された。
- ⑨ 887年、藤原基経を関白に任じる宇多天皇の勅書を起草したが、その内容を咎められ、責任を追及された。
- ⑩ 894～966年。篁の孫で、『屏風土代』『秋萩帖』『三体白氏詩卷』などの書を遺した。

問6 図Cで向かい合う2人の人物は、前掲の絵巻物が描く火災の当時の天皇と外祖父である。2人の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 右の人物は忠盛の子で、娘の徳子が高倉天皇の中宮となり、左の人物を産んだ。
- ② 右の人物は兼家の子で、娘の彰子が一条天皇の皇后となり、左の人物を産んだ。
- ③ 右の人物は師輔の子で、娘の詮子が円融天皇の女御となり、左の人物を産んだ。
- ④ 右の人物は内麻呂の子で、娘の順子が正良親王の妃となり、左の人物を産んだ。
- ⑤ 右の人物は冬嗣の子で、娘の明子が文徳天皇の女御となり、左の人物を産んだ。

問7 図Dには、当時の絵巻物が用いた特徴的な技法が使用されている。その説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① すやり霞を使って場面転換をする方法で、『源氏物語絵巻』と同じく全画面にわたり多用されている。
- ② 異なる時間を1つの場面に描き込むもので、『信貴山縁起絵巻』にも同じ方法がみられる。
- ③ 動物を擬人化する表現方法で、『鳥獣戯画』に代表される。
- ④ 中世の市の様子が写實的に描かれ、『一遍上人絵伝』と並ぶ貴重な資料となっている。
- ⑤ 画面構成を丁寧に描いた詳細な下書きがあり、同時代の『駒競行幸絵詞』にもほぼ全画面で確認できる。

問8 前掲の絵巻物に描かれた事変は、藤原氏が競合する氏族を排斥し、自らの勢力を確立しようと起こしたものと推測されている。次に掲げる事件・政変のうち、9～10世紀において、藤原氏が他氏族を排斥した事例と考えられているものを、3つ選びなさい。ただし、4つ以上を選んだ場合は、すべて不正解とする。

- ① 橘奈良麻呂の変 ② 宇佐八幡神託事件 ③ 藤原種継暗殺事件
④ 安和の変 ⑤ 葉子の変 ⑥ 承和の変
⑦ 菅原道真の左遷 ⑧ 恵美押勝の乱

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、文中には一部字句を伏せた個所があるので、歴史的に正しく補って読むこと。

(1)年の元弘の変後の紆余曲折を経て、いわゆる建武の新政を始めた後醍醐天皇は、延喜・(2)の治を理想とした天皇親政を試みたが、政権内の軋轢等により短期間に成果をあげることはできなかった。たとえば、功臣の(3)が東北への勢力拡張を狙って陸奥將軍府をつくると、他方で(4)が鎌倉將軍府をつくり対抗を示すなど、懸念材料に事欠かなかった。加えて、北条(5)の子(6)が、(7)年に関東で「中先代の乱」と呼ばれた大規模な反乱を起こすなど、新政権の前途は不安に満ちていた。

この反乱を治めるといふ口実で鎌倉に下った足利尊氏は(8)年、京都を制圧し、(9)天皇を擁立、幕府の政治方針として建武式目を発表した。これに対抗して、大覚寺統の後醍醐天皇は、(10)の山中へのがれて南朝を標榜、京都の北朝と対立し、以後ほぼ(11)年にわたる南北朝の動乱が開始された。(12)年、尊氏が征夷大將軍に任じられるころまでは北朝側が優勢と見られていたが、(13)の対立に起因した(14)年に始まる「観応の擾乱」のころより、十余年にわたって三つ巴の勢力争いが続き、これらの情勢が政治的に一応の落ち着きを迎えるのは、(15)年に足利義満が南北朝の合体に成功するまで時機を待たねばならなかった。

しかし、文化面に目を向けると、室町時代はまた違った世界が開けてくる。確

かに、こうした時代の変化を反映した緊張感をみせる一方、いわゆる室町文化は広範で多彩な様相をみせ、結果的に今日の日本文化の代表格である、能や立花、茶道などを生み出すことになるが、そのあたりを正確に理解するためには、室町文化を少なくとも3つの時期に区分けして考える必要がある。それらは時代順に、南北朝文化、北山文化、東山文化の三者であり、さらには応仁の乱前後からの中央と地方との文化交流と普及についても視野に入れておくことを忘れてはならない。

問1 上記の文章中、伏せてある語句(1)~(15)について、それぞれ歴史的にもっとも適切なものを選びなさい。

- (1) ① 1328 ② 1329 ③ 1331 ④ 1333 ⑤ 1335
⑥ 1336
- (2) ① 承和 ② 平城 ③ 貞観 ④ 永徳 ⑤ 寛仁
⑥ 天曆
- (3) ① 新田義貞 ② 大塔宮 ③ 足利直義 ④ 楠木正成
⑤ 楠木正行 ⑥ 北畠顕家
- (4) ① 新田義貞 ② 大塔宮 ③ 足利直義 ④ 楠木正成
⑤ 楠木正行 ⑥ 北畠顕家
- (5) ① 正時 ② 時平 ③ 時行 ④ 師時 ⑤ 時実
⑥ 高時
- (6) ① 正時 ② 時平 ③ 時行 ④ 師時 ⑤ 時実
⑥ 高時
- (7) ① 1333 ② 1335 ③ 1336 ④ 1337 ⑤ 1338
⑥ 1339
- (8) ① 1335 ② 1336 ③ 1337 ④ 1338 ⑤ 1339
⑥ 1340
- (9) ① 光明 ② 亀山 ③ 伏見 ④ 長慶 ⑤ 後村上
⑥ 光厳

- (10) ① 河内 ② 熊野 ③ 和泉 ④ 淡路島 ⑤ 隠岐
⑥ 吉野
- (11) ① 15 ② 25 ③ 40 ④ 60 ⑤ 80 ⑥ 110
- (12) ① 1338 ② 1339 ③ 1340 ④ 1341 ⑤ 1342
⑥ 1344
- (13) ① 足利尊氏と楠木正成 ② 高師直と塩谷高定
③ 足利直義と佐々木導誉 ④ 楠木正行と護良親王
⑤ 足利基氏と菊池武光 ⑥ 高師直と足利直義
- (14) ① 1342 ② 1344 ③ 1347 ④ 1350 ⑤ 1353
⑥ 1355
- (15) ① 1388 ② 1392 ③ 1395 ④ 1399 ⑤ 1401
⑥ 1403

問2 室町時代の文化を中心にした以下の問いに答えなさい。

次の(1)~(10)の文化財は、それぞれ以下のどの文化に属しているか、番号で答えなさい。

- (1) 延暦寺根本中堂
(2) 興福寺五重塔
(3) 永保寺開山堂
(4) 善隣国宝記
(5) 樵談治要
(6) 蓮華王院本堂
(7) 四季山水図巻
(8) 妙心寺退蔵院瓢鮎図
(9) 天竜寺庭園
(10) 増鏡

- ① 南北朝文化 ② 北山文化 ③ 東山文化
④ 室町時代以前の文化 ⑤ 室町時代以後の文化

3

次の短文1～12は、16世紀以後の貿易、キリスト教、外国通商について述べたものである。よく読んで、以下の問いに答えなさい。

問 各文章に付された下線部(a)～(e)には、誤りが1つある。その誤りの部分を記号で指摘し、かつ正しい解答を、それぞれの語群の中から1つ選びなさい。

1. 16世紀半ば、日本では、ポルトガル人やスペイン人を南蛮人、その船を南蛮船と呼び、彼らとの貿易を南蛮貿易といった。南蛮人は、鉄砲・火薬や中国の銀食器などをもたらした。ポルトガル人らの貿易は主に肥前の松浦・大村・有馬や豊後の大友、薩摩の島津領内でおこなわれ、松浦領では平戸、大村領では横瀬浦・福田・長崎、有馬領では口之津、大友領では府内、島津領では鹿児島・山川・坊津などが主要な港であった。

- (1) イタリア人 (2) フランス人 (3) 生糸 (4) 香辛料
 (5) 高瀬 (6) 博多 (7) 門司 (8) 下関
 (9) 鞆の浦 (10) 兵庫

2. 南蛮貿易は、キリスト教宣教師の布教活動と一体化しておこなわれた。

1549年、日本布教を志したイエズス会(耶蘇会)の宣教師フランシスコ=ザビエルが鹿児島に上陸し、高山右近、大友義鎮(宗麟)らの大名の保護を受けて布教を開始した。日本では当時、キリスト教をキリシタン(吉利支丹・切支丹)宗と呼び、宣教師の神父をポルトガル語から転じたパテレンと呼んだ。

- (1) 1543年 (2) 1546年 (3) ルイス=フロイス
 (4) フランシスコ=カブラル (5) 黒田孝高 (6) 大内義隆
 (7) オランダ語 (8) 中国語 (9) イルマン
 (10) カピタン

3. 宣教師は相次いで来日し、南蛮寺(教会堂)やコレジオやセミナリオなどをつくり、熱心に布教につとめた。ザビエルの後、ポルトガル人宣教師^(a)ガスパル=ヴィレラや『日本史』の著者として知られる^(b)ルイス=デ・グラナダらが九州を中心^(c)に近畿地方・中国地方の布教につとめた。また、豊後府内では日本で初めての西洋式病院開設に尽力した^(d)ルイス=アルメイダや、都・大坂では^(e)オルガンティーノが活動し、キリスト教は急速に広まった。

- | | |
|-----------------|----------------|
| (1) ムゼオ | (2) パラシオ |
| (3) フランシスコ=カブラル | (4) バルタザル=ガーゴ |
| (5) ジョアン=ロドリゲス | (6) ルイス=フロイス |
| (7) ファン=フェルナンデス | (8) ルイス=ソテロ |
| (9) ガスパル=コエリヨ | (10) イルマン=ロレンソ |

4. イエズス会宣教師^(a)ヴァリニャーノ(ニ)の勧めにより、1582年、伊東マンシヨ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、^(b)原マルチノら4人の少年使節をローマ教皇のもとに派遣した。彼らは^(c)ノビスパン・リスボンを経てローマに到着し、^(d)教皇グレゴリウス13世に会い、^(e)1590年、帰国している。

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) ルイス=フロイス | (2) ガスパル=コエリヨ |
| (3) セバスチャン木村 | (4) ペトロ岐部 |
| (5) ゴア | (6) ルソン |
| (7) パウロ3世 | (8) ウルバノ8世 |
| (9) 1589年 | (10) 1595年 |

5. 秀吉は、はじめキリスト教の布教を認めたが、しだいに自分の作ろうとする国家体制にキリスト教が妨げになると考え、1585年、突然布告を出して宣教師の国外追放を指令した。その理由として、日本国は神国であること、宣教師たちが神社仏閣を破壊したことなどをあげたが、ポルトガル船や商人の来航は従来どおり認める方針をとった。

- (1) 信長 (2) 家康 (3) 1587年
(4) 1588年 (5) キリシタン禁制 (6) キリシタン隔離
(7) 朝廷工作 (8) 反乱の扇動 (9) スペイン
(10) イギリス

6. 1596年、スペイン船サン＝フェリペ号が土佐に漂着したとき、乗組員の不用意な発言などからスペインが領土拡張に宣教師を利用しているとの話が伝わり、これを知った秀吉は、スペイン系のドミニコ会を中心とする宣教師・信者26名を捕え、長崎に送って処刑した。

- (1) 1594年 (2) 1595年 (3) ポルトガル
(4) イギリス (5) サンタ＝マルタ (6) リーフデ
(7) フランシスコ会 (8) アウグスチノ会 (9) 江戸
(10) 京都

7. 宣教師の活動とともに、異色の南蛮文化が開花した。金属活字による活字印刷術が、宣教師^(a)ジョアン＝ロドリゲスによって伝えられた。活字印刷機も輸入され、ローマ字によるキリスト教文学・宗教書の翻訳、日本語辞書、日本古典の出版などがおこなわれた。これらの出版物を^(b)キリシタン版とよび、そのうち、とくに天草で印刷された出版物が知られている。代表的なものに、日本の古典を学ぶために^(c)1592年に印刷された『^(d)天草版平家物語』、翌年の、外国の文学の日本版としての『^(e)天草版伊曾保物語』、1603(～04)年の宣教師編纂の辞書『日葡辞書』などがある。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) ヴァリニャーノ(ニ) | (2) ルイス＝フロイス |
| (3) プチジャン版 | (4) 古活字本 |
| (5) 1595年 | (6) 1598年 |
| (7) 『どちりなきりしたん』 | (8) 『金言集』 |
| (9) 『日本大文典』 | (10) 『サカラメント提要』 |

8. 17世紀になると、オランダ人、イギリス人の来航も相次いだ。オランダは^(a)1609年に、イギリスは^(b)1613年に^(c)平戸に商館開設をゆるされた。紅毛人とよばれた人びとが、カトリック教徒の南蛮人(ポルトガル・^(d)スペイン人)と異なり、プロテスタント(新教)を信仰していたことが幕府に歓迎された理由である。しかし、イギリスはオランダとの競争に敗れ、^(e)1620年、商館を閉鎖して日本を離れた。

- | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|
| (1) 1605年 | (2) 1607年 | (3) 1614年 | (4) 1615年 |
| (5) 長崎 | (6) 鹿児島 | (7) オランダ | (8) イギリス |
| (9) 1623年 | (10) 1625年 | | |

9. 伊達政宗は、宣教師ルイス＝ソテロのすすめもあって、家臣の支倉常長を
(a) (b) (c)
スペインに派遣してメキシコと直接に貿易を開こうとした。1613年、使節は
(d)
陸奥月の浦を出発し、メキシコ・スペイン・ローマに行き、ローマ教皇に謁
した。これを元和の遣欧使節とよぶ。一団は1620年に帰国したが、貿易の目
(e)
的は達せられなかった。

- (1) 大友宗麟 (2) 黒田如水 (3) オルガンチノ
(4) ルイス＝フロイス (5) 末次平蔵 (6) 角倉了以
(7) 1614年 (8) 1615年 (9) 慶長
(10) 寛永

10. 豊臣政権下に続き、江戸幕府の初期に、日本人の海外進出はさかんであ
り、ルソン・トンキン・アンナン・カンボジア・シャムなどに渡航する商人
らの船は多かった。東南アジア各地には日本町が形成されたところも多い。
ルソンのディラオ・サンミゲル、カンボジアのバタヴィア・ピニャルー、ビ
(a) (b)
ルマのアラカンなどである。アユタヤの山田長政のように、王室に用いら
(c) (d)
れ、日本町の長や隣国リゴール(六昆)の太守となった者もいた。

- (1) アンボイナ (2) マカオ (3) プノンペン (4) アンナン
(5) マラッカ (6) パタニ (7) 岡本大八 (8) 田中勝介
(9) スマトラ (10) ジャワ

11. 1637年から翌年にかけておこった島原の乱の影響から、幕府のキリスト教
(a) (b)
に対する警戒心はさらに深まり、1639年、ポルトガル船の来航を禁止した。
(c)
さらには平戸にあったオランダ商館を1641年、長崎の出島に移し、唯一のこ
(d)
されたヨーロッパ人であるオランダ人と日本との自由な交流を禁止して寺社
(e)
奉行の厳しい監視のもとにおいた。

- (1) 1635年 (2) 1636年 (3) 岡本大八事件 (4) 元和の大殉教
(5) 1640年 (6) 1641年 (7) 西坂 (8) 外海
(9) 奏者番 (10) 長崎奉行

12. ヨーロッパの学術・知識の研究や吸収は困難をきわめたが、長崎出島のオランダ人などを通じての情報はあった。西川如見^(a)は『華夷通商考』において海外事情を描写し、新井白石^(b)は、1708年にキリスト教布教のため屋久島^(c)に潜入したところを捕らえられたスペイン人宣教師シドッチ^(d)^(e)を訊問した。そこから得た世界の地理・物産・民俗などの知識をもとに、『采覧異言』『西洋紀聞』を著した。

- | | | |
|-----------------|-----------|-------------|
| (1) 杉田玄白 | (2) 志筑忠雄 | (3) 田沼意次 |
| (4) 松平定信 | (5) 種子島 | (6) 五島 |
| (7) ポルトガル人 | (8) イタリア人 | (9) マテオ＝リッチ |
| (10) ウィリアム＝アダムス | | |

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

問1 次の文章の空欄(ア)～(ケ)に当てはまるもっとも適切な語句を、以下の語群から1つずつ選びなさい。なお、同じものを何回選んでもよい。

(ア)年に(イ)が民本主義を提唱すると、政治の民主化を求める国民の声が大きくなった。しかし、同年には(ウ)を務めていた(エ)が横滑りの形で首相に就き、超然内閣をつくった。その後、この内閣は、米価の高騰に対して(オ)県の漁村の女性たちが抗議活動を起こしたのをきっかけに米騒動が起き、それは軍隊の出動で鎮圧したものの、責任をとって総辞職した。そして、「平民宰相」と呼ばれることになる(カ)が後継内閣を組閣したが、この内閣は、衆議院議員の選挙権のための資格である直接国税の納入額を(キ)円以上に引き下げたものの、普通選挙制度の導入には時期尚早として消極的であった。そして、この政権の与党(ク)は、大戦中の好景気を背景とした各種の積極政策を公約としたこともあって、総選挙において圧勝した。しかし、この首相は、第1次世界大戦終結後の戦後恐慌もあり、汚職も頻発したことから、それらに憤激した青年に暗殺された。後継

内閣は、前内閣の大蔵大臣であった人物が首相に横滑りして成立したが、前首相のような統率力を発揮できなかったため、短命に終わり、後継の首相には海軍出身の(ケ)が就き、これより非政党内閣が3代続くことになった。

[語群]

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ① 加藤友三郎 | ② 原敬 | ③ 桂太郎 | ④ 田中義一 |
| ⑤ 台湾総督 | ⑥ 1917 | ⑦ 石橋湛山 | ⑧ 石川 |
| ⑨ 5 | ⑩ 10 | ⑪ 1916 | ⑫ 陸軍大臣 |
| ⑬ 山本権兵衛 | ⑭ 美濃部達吉 | ⑮ 大隈重信 | ⑯ 福井 |
| ⑰ 3 | ⑱ 富山 | ⑲ 1915 | ⑳ 新潟 |
| ㉑ 吉野作造 | ㉒ 朝鮮総督 | ㉓ 立憲国民党 | ㉔ 憲政会 |
| ㉕ 高橋是清 | ㉖ 寺内正毅 | ㉗ 西園寺公望 | ㉘ 立憲政友会 |
| ㉙ 1914 | ㉚ 関東都督 | ㉛ 斎藤実 | |

問2 次の文章の空欄(ア)～(サ)に当てはまるもっとも適切な語句を、以下の語群から1つずつ選びなさい。なお、同じものを何回選んでもよい。

問1でふれたように、非政党内閣が続いたが、(ア)年に政党に対抗する形で(イ)が内閣をつくると、政党勢力は、これに反対すべく、第2次護憲運動を展開した。内閣は、政党勢力の切崩しを行い、政党のうち(ウ)を味方にして議会を解散したが、その後の総選挙は政党勢力が圧勝して、内閣は総辞職した。そして、総選挙の結果、第1党となった党の総裁(エ)が連立内閣の首相に就いた。この内閣は、国内政治においては懸案であった普通選挙法を実現させ、外交においては(オ)外相によるいわゆる「協調外交」を進め、(カ)との修交にもふみきった一方、これらによる影響に対する警戒から、(キ)を成立させもした。しかし、連立内閣はこの内閣成立の翌年には崩れ、第1党による単独内閣となった。その翌年、首相が病死すると、第1党の新総裁となった(ク)が内閣を組閣した。そして、この内閣は、経営破綻の状態に陥っていた(ケ)商店に対する巨額の焦付き債権で苦しんでいた(コ)銀行を救済すべく緊急勅令を出そうとしたものの、それが「協調外交」などに対する不満をいだいていた(サ)の了承を得られなかったため、総辞職を余儀なくされた。

[語群]

- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| ① 枢密院 | ② 岩井 | ③ 犬養毅 | ④ 治安警察法 |
| ⑤ 加藤高明 | ⑥ 革新倶楽部 | ⑦ 清浦奎吾 | ⑧ 韓国 |
| ⑨ 浜口雄幸 | ⑩ 蒙疆 | ⑪ 内田康哉 | ⑫ 1924 |
| ⑬ 鈴木 | ⑭ 平田東助 | ⑮ 治安取締法 | ⑯ 1925 |
| ⑰ 政友本党 | ⑱ ソ連 | ⑲ ドイツ | ⑳ 朝鮮 |
| ㉑ 貴族院 | ㉒ 尾崎行雄 | ㉓ 1923 | ㉔ 田中義一 |
| ㉕ 憲政会 | ㉖ 松井慶四郎 | ㉗ 床次竹二郎 | ㉘ 大審院 |
| ㉙ 中村 | ㉚ 幣原喜重郎 | ㉛ 治安維持法 | ㉜ 若槻礼次郎 |
| ㉝ 台湾 | ㉞ 片岡直温 | ㉟ 衆議院 | ㊱ 渡辺 |